

実体経済の動向

◇生産、出荷とも落着き傾向

(生産——増勢鈍化)

鉱工業生産(季節調整済み)は、9月に前月比1.1%増加したあと、10月(速報)は0.7%の減少となった。10月の減少には、前月著増の大型機械の反動減も響いているが、3ヵ月移動平均値の前月比でみると6月+1.4%、7月+1.0%、8月横ばい、9月-0.3%とこのところ生産の基調は漸次落着きの度合いを強めている。また、前年同月比伸び率も、7月+18.4%、8月+16.9%、9月+15.3%のあと、10月には+11.6%とかなり大幅に低下した。

生産動向を特殊分類別にみると、一般資本財の減少(前月比-6.6%)が大きかったほか、生産財も小幅ながら減少(同-0.6%)した。一般資本財の減少が大きかったのは、前記大型機械(圧延機械、重電機)の反動減によるところが大きいが、工作機械等の生産が減少したことも注目される。生産財の減少については、減産実施の鉄鋼、非鉄金属が減少したほか、これまで比較的強かった化

学製品等のうちにも、一部に減少に転じたものが見られたためである。

一方8、9月と減少した消費財は、耐久、非耐久とも10月はかなりの増加(各+2.6%、+2.4%)となった。耐久消費財の増加は大衆乗用車(排気量360~1,000cc)が9月に続きかなりの増産となったことのほか、前月大幅減少を示したエアコンディショナー等が反動増となったためであり、カラーテレビ、軽乗用車(360cc以下)の生産は引き続き減少した。また非耐久消費財については、繊維二次製品(メリヤス外衣等)、油脂製品・合成洗剤(家庭用合成洗剤等)等が増加した。このほか建設資材も微増(前月比+0.8%)を示したが、これには前月著減の橋りょうの反動増が響いている。

(出荷——鈍化傾向続く)

鉱工業出荷(季節調整済み)は、9月に前月比+2.6%とやや高い伸びを示したあと、10月(速報)は0.3%の微増にとどまった。当月の増加には船舶の引渡し集中がかなり響いている(船舶を除けば、9月+3.3%、10月-1.7%となる)。最近の出荷を3ヵ月移動平均値の前月比でみれば、6月+1.6%、7月+0.8%、8月+0.2%のあと9月には横ばいと、生産同様増勢鈍化傾向をたどってい

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	44年	45年				45年		
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月
鉱 指 数	199.2	205.5	216.0	221.5	219.7	222.1	—	—
工 前期(月)比	4.8	3.2	5.1	2.6	-1.4	1.1	-0.7	—
業 前年同期(月)比	17.7	19.0	18.4	16.9	16.9	15.3	—	—
投 資 財	7.2	7.9	6.5	3.8	-1.0	2.7	-2.8	—
資 本 財	7.2	10.1	6.3	5.7	0.2	3.0	-4.2	—
同(輸送機械を除く)	10.2	12.2	6.1	7.5	2.6	1.3	-6.6	—
輸送機械	1.8	5.7	7.4	-1.0	-6.7	7.9	—	—
建設資材	6.8	2.4	6.2	-1.0	-4.1	1.0	0.8	—
消費財	3.2	-2.1	6.2	1.5	-3.9	-1.7	2.4	—
耐久消費財	6.6	-4.9	5.8	2.0	-3.4	-3.1	2.6	—
非耐久消費財	1.5	1.6	4.8	1.3	-3.9	-1.4	2.4	—
生産財	4.8	3.1	2.9	1.6	-0.1	1.1	-0.6	—

(注) 通産省調べ、45年10月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	44年	45年				45年		
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月
鉱 指 数	192.5	202.7	205.4	210.9	207.0	212.4	—	—
工 前期(月)比	4.2	5.3	1.3	2.6	-2.9	2.6	0.3	—
業 前年同期(月)比	18.0	20.2	15.4	14.3	14.2	12.9	—	—
投 資 財	5.4	10.3	2.1	3.1	-1.9	0.6	5.1	—
資 本 財	5.5	14.0	0.4	4.5	-1.0	-0.2	6.7	—
同(輸送機械を除く)	5.9	10.8	2.2	7.4	1.6	2.0	-6.3	—
輸送機械	5.1	21.0	-4.2	0.2	-6.2	-3.5	—	—
建設資材	5.4	0.9	6.5	-0.5	3.8	1.6	0.8	—
消費財	3.5	1.3	2.2	2.7	-4.8	2.9	-3.9	—
耐久消費財	4.8	-2.7	3.3	2.9	-4.1	-2.5	-8.4	—
非耐久消費財	3.0	3.2	0.9	3.3	-4.0	5.0	2.3	—
生産財	3.7	4.2	0.9	1.7	-2.0	3.8	-1.5	—

(注) 通産省調べ、45年10月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

るとみられる。また、前年同月比伸び率も7月+15.9%、8月+14.2%、9月+12.9%のあと、10月は+10.6%(41年3月の+7.6%以来の最低)とかなり低下した。

特殊分類別にみると、まず、資本財は船舶の出荷の集中から著増(前月比+6.7%)をみた。しかし輸送機械(推定、同+28.1%)を除く一般資本財でみれば、金属加工機械(圧延機械、工作機械、機械プレス等)、発送配電機器(非標準変圧器、配電盤・制御盤等)、電動機等の減少を中心に逆に6.3%の大幅減少となった。一方、耐久消費財は8月(同-4.1%)、9月(同-2.5%)に続き10月も-8.4%とさらに一段と大幅な減少となったが、これはエアコンディショナー、大衆乗用車(360～1,500cc)、石油ストーブ等の増加にもかかわらず、カラーテレビ(9月-8.0%、10月-20.2%)、軽乗用車(360cc以下)が前月を上回る大幅低下となったほか、電気冷蔵庫および洗たく機も大幅な減少を示したためである。また、生産財も前月は鉄鋼、化学肥料等の輸出増加からかなりの伸びをみせたが、10月は鉄鋼、非鉄(電気銅、亜鉛)、合繊糸、化学品(塩ビ・エチレン等)、トランジスタ等を中心に-1.5%と再び減少に転じた。そのほか非耐久消費財は繊維二次製品(メリヤス外衣等)を中心に、また建設資材は橋りょう、鉄丸くぎ等を中心に、それぞれ2.3%、0.8%の増加となった。

(製品在庫——10月は再び大幅増加)

生産者製品在庫(季節調整済み)は、6～8月にかけて、かなりの増加を続けたあと、9月は鉄鋼等の輸出増加もあって横ばいにとどまったが、10月(速報)は再び前月比3.8%の大幅な増加となった。3ヵ月移動平均でみれば、6月以来一貫してかなりの増勢を続けている(前年同月比伸び率も+23.1%と8月<+21.5%>、9月<+21.6%>に比べて一段高)。

特殊分類別にみると、各財とも増加を示したが、とくに輸送機械(推計、前月比+9.6%、トラックの大幅増が主因)を中心とする資本財ならびにカラーテレビ、大衆乗用車、オートバイを中心

とする耐久消費財(同+7.3%)の増加が大きい。加えて生産財の在庫も前月ほぼ横ばいのあと10月は再び+3.0%とかなり増加した。生産財の増加は、前月減少を示した鉄鋼が普通鋼熱間圧延鋼材を中心に再び増加したことに加え、非鉄金属(アルミ等)、石油化学製品(繊維原料、塩ビ)、電子部品(陰極)、板紙、織物(合繊、スフ)等が出荷の伸び悩みを映じて増加したためである。このほか、建設資材ではセメント(需要期入り)のほか、板ガラス、金属製建具(スチールサッシ)等が引き続き増加、また非耐久消費財では紙、繊維二次製品、プラスチック製品等の増加が目だっている。

以上の結果、10月の製品在庫率指数(速報、季節調整済み)は103.1と40年基準指数に改訂後では従来の最高となった(出荷、在庫を3ヵ月移動平均でならした在庫率指数をみても、8月99.0のあと、9月は101.6に上昇)。特殊分類別には、非耐久消費財(98.6→98.3)を除き、各財とも上昇したが、とくに耐久消費財の大幅上昇(120.7→141.4)が目だっている。

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

		44年	45年				45年		
		12月	3月	6月	9月		8月	9月	10月
鉱工業	指数	186.4	185.5	199.1	211.5		211.5	211.5	—
	前期(月)末比	7.6	-0.5	7.3	6.2		3.9	0	3.8
	前年同期(月)末比	20.3	16.3	18.3	21.6		21.5	21.6	—
	製品在庫率指数	95.0	89.0	94.4	99.6		102.1	99.6	103.1
業	投資財	11.0	3.3	13.7	8.3		3.3	0.2	2.3
	資本財	14.8	1.7	17.9	8.8		3.6	-1.2	3.2
	同(輸送機械を除く)	14.1	4.0	17.0	13.9		6.3	1.2	2.0
	輸送機械	18.3	-9.2	20.9	-10.6		-7.6	-10.2	—
	建設資材	6.7	5.3	8.3	8.0		2.9	1.8	1.1
	消費財	7.5	-5.7	6.1	3.9		3.4	-0.5	5.8
	耐久消費財	5.7	-2.2	8.2	4.5		2.3	0.2	7.3
	非耐久消費財	2.4	-2.9	5.4	1.1		3.5	-2.4	2.7
	生産財	7.4	1.8	7.0	6.9		5.1	0.1	3.0

(注) 通産省調べ、45年10月は速報。

前年同期(月)末比は原指数による。

(原材料在庫——増勢持続)

製造業原材料在庫(季節調整済み)は、9月に前

月比+3.5%とかなりの増加を示したあと、10月(速報)も+1.4%と引き続き増加した(うち国産分+0.1%、輸入分+5.6%)。業種別には、非鉄(輸入銅鉱、同亜鉛鉱)、造船(鋼材)、化学工業(国産原料油脂、同酸化エチレン等)、石油製品(輸入原油)、石炭製品(輸入コークス用原料炭)、ゴム製品工業(国産合成ゴム等)での大幅増加が目だったが、前月著増をみた鉄鋼業は国産鉄くず等の増加にもかかわらず、輸入鉄くず等が減少したため、10月は前月比+0.6%と微増にとどまった。当月の増加については、生産財を中心に生産調整が広まるにつれて素原材料消費が減少をみたことが大きく響いているものとみられる。

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	45 年			45 年		
	3 月	6 月	9 月	8 月	9 月	10 月
在庫指数	155.1	159.4	170.0	164.2	170.0	172.3
前期(月)末比	3.5	2.8	6.6	-1.8	3.5	1.4
国産分	4.4	3.7	5.1	-1.6	2.9	0.1
素原材料	0.9	4.8	7.1	-0.6	3.1	0
製品原材料	4.7	3.4	5.3	-1.5	2.9	0.3
輸入分	1.1	-1.5	11.3	-1.8	4.4	5.6
素原材料	1.9	-2.0	11.3	-1.8	4.2	5.9
在庫率指数	77.7	78.4	83.8	80.3	83.8	84.6
国産分	74.3	75.7	79.9	77.1	79.9	79.6
素原材料	80.2	84.0	88.8	86.6	88.8	88.9
製品原材料	75.0	76.0	80.7	77.6	80.7	80.5
輸入分	90.5	88.2	94.5	89.5	94.5	100.2
素原材料	91.0	88.1	94.0	89.7	94.0	99.7

(注) 通産省調べ、45年10月は速報。

(販売業者在庫——9月はやや増加)

販売業者在庫(季節調整済み)は、7月-0.1%、8月+0.8%と落ち着いた動きを示したあと、9月(速報)は+2.2%とやや高い増加を示した。品目別にみると、鋼材、石油製品(灯油、重油)、自動車等の増加が目だったが、前月著増をみた民生用電気製品(テレビ、洗たく機)が小反落したほか、非鉄金属、石炭、生ゴム、織物等も減少した。石油製品の増加には需要期控えといった季節

的要因もあり、また自動車については新車発売控えといった一時的要因も響いており、総じて、販売業者の投資態度は引き続き慎重にうかがわれる。

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	45 年			45 年		
	3 月	6 月	9 月	7 月	8 月	9 月
総合指数	160.8	172.3	177.2	172.2	173.5	177.2
前期(月)末比	1.9	7.2	2.8	-0.1	0.8	2.2
素原材料	-4.2	-6.2	3.9	6.0	0.6	-2.5
製品	2.7	8.4	-1.0	-0.5	0.5	2.4

(注) 通産省調べ、45年9月は速報。

(設備投資——10月は資本財出荷、機械受注とも大幅減少)

設備投資と関連の深い一般資本財出荷(季節調整済み)は、9月に前月比+2.0%のあと、10月(速報)は-6.3%と大幅鈍化となった。内容的にみると、前月減少した化学機械、運搬機械(エレベーター、コンベア)、ポンプ等が増加したもの、前月著伸をみた圧延機械、大型重電機(非標準変圧器、同電動機等)、印刷機械、トラクター等が大幅反動減となったほか、工作機械、標準モーター等にも減少がみられた。

なお一般資本財出荷の上期中の推移をみると、4～6月の伸びが低かった(前期比+2.2%)こともあって、7～9月はかなりの増加(同+7.4%)となったが、上期全体をならしてみると前期(44年度下期)比+11.4%と44年度下期(+14.2%)に比べいくぶん鈍化している(注)。

(注) 一般資本財出荷の推移(季節調整済み、前期比・%)

	(一般資本財)	(事務用機械を除く一般資本財)
44年10～12月	+ 5.9	+ 4.9
45年1～3月	+ 10.8	+ 8.0
(44年度下期)	+ 14.2	+ 10.6
45年4～6月	+ 2.2	+ 0.1
7～9月	+ 7.4	+ 3.6
(45年度上期)	+ 11.4	+ 5.9

一方、先行指標である機械受注(船舶を除く民

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	45 年			45 年		
	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	8 月	9 月	10 月
民 需	2,739 (+23.2)	2,522 (- 7.9)	2,690 (+ 6.6)	2,559 (- 1.3)	2,917 (+14.0)	2,631 (- 9.8)
同 (船舶を 除く)	2,385 (+16.4)	2,314 (- 2.9)	2,430 (+ 5.0)	2,194 (-11.5)	2,619 (+19.3)	2,120 (-19.1)
製 造 業	1,410 (+ 3.9)	1,487 (+ 5.4)	1,370 (- 7.8)	1,301 (- 3.9)	1,457 (+11.9)	1,251 (-14.1)
非 製 造 業	1,360 (+58.3)	1,036 (-23.8)	1,308 (+26.2)	1,255 (+ 0.8)	1,423 (+13.4)	1,369 (- 4.5)
同 (船舶を 除く)	986 (+39.7)	832 (-15.6)	1,065 (+28.1)	914 (-20.2)	1,136 (+24.3)	886 (-22.0)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

需、季節調整済み)は、9月に前月比19.3%増加したあと、10月は19.1%の反落となった。3ヵ月移動平均値でみても、7月-4.2%、8月+10.8%のあと、9月は-4.9%の減少となり、前年同月比でみても、10月は+1.9%(9月は+32.2%)とほぼ前年並みの水準にとどまった。10月の減少については、電力の著減がかなり響いているが、製造業についても化学および造船を除き軒並み減少をみた。

この間、建設工事受注額(民間産業、季節調整済み)は、9月に前月比+6.1%と増加のあと、10月(速報)は-24.1%とかなりの減少となった。3ヵ月移動平均値の前月比でみても、7月+0.1%、8月+4.0%のあと、9月は-7.5%と減少に転じている。これは、製造業のうち鉄鋼、化学等からの大口受注が引き続き伸び悩んだうえ、非製造業でも不動産業(土地造成等)からの受注が頭打ちとなったことなどを映じたものとみられる。

◆商品市況は弱基調ながら一部に下げ渋り気配

11月の商品市況は、石油製品、セメント等が引き続き堅調に推移したほかは、非鉄金属、木材、紙、合成樹脂等が弱含み商状を続け、鉄鋼も厚板、形鋼を除き続落を示すなど総じて弱基調を継続した。これはユーザー・商社筋が当用買いの態度をくずしていないこと、弱電、自動車関連需要

の伸び悩みや輸出の不ぞえを主因に需給関係が大勢として引きゆるみ状態を続けていることによるとみられる。もっとも繊維では、綿糸、人絹糸等が値上りを示したが、これには定期市場での人气的要因が大きく響いており、実際の需給事情にはさほどの変化はみられていない。

しかしながらこうしたなかであって、最近メーカーの生産調整の強化(鉄鋼)、新設設備の稼働開始繰延べ(合繊)などから、これまでの先安観が薄らぎ、市況に下げ渋り気配あるいは底値感が出てきているものもみられる。金融引締め緩和も、その実体的な影響はまだほとんど現われていないが、市場人気を多少とも明るくしているようである。

品目別の動きは次のとおり。

鉄鋼…冷薄、棒鋼、亜鉛鉄板等が続落したもののその下げ幅は前月までに比べて小幅となり、また厚板は若干の値もどしをみせるなど、総じて下げ渋り気配をみせた。これは、粗鋼減産の本決まり、金融引締めの緩和等をながめ市場の弱気観がやや薄らいだこと、こうした事情を背景に一部ながら特約店筋に小口補充買いの動きがみられたことによる。

繊維…合繊、そ毛糸は保合いに推移したが、綿糸、人絹糸、スフ糸、生糸は上伸した。綿糸等の値上がりは、定期市場での仕手筋の買いあおりといった人气的要因が主因であり、実需面では、高値追随難や織物の売れ行き不振によるユーザー筋の買い控えが続いている。

非鉄金属…銅をはじめ鉛、亜鉛、アンチモニー、カドミウム等が弱含み商状を継続した。しかし、海外相場が米国自動車スト解決を主因に、下げ渋り状態となっているため、底値感が台頭し、市況軟調の度は薄れつつある。

石油製品…灯油は荷動きが活発化し、市況も強含み。重油ではC重油の大口出荷価格(電力、鉄鋼向けを除く)の引上げが実現したほか、A重油もビル暖房用需要の増加からじり高を示し、つれてB重油も強含んでいる。一方ガソリン、軽油は

ほぼ保合いとなった。

セメント…小口分については安値物が整理されつつあり、主力生コン向けもしっかり商状となっている。

木材…外材の入荷増による荷圧迫から一部高級材を除き弱含みを続けている。

化学品…基礎薬品ではカーバイド、か性ソーダは引き続き保合い、一方塩酸、ホルマリン等は荷動き鈍化から弱含みに推移した。合成樹脂でも、弱電、雑貨向け出荷の不ざえから、塩ビ、高圧ポリエチレン、ABS樹脂等が弱含みを続けている。

紙…上質紙が在庫の圧迫から弱含み商状を続け、板紙も家電業界の不振に加え、青果物、歳暮関係需要に盛り上がりが見られない。この間、供給圧力の少ないクラフト紙および純白ロール紙は堅調に推移した。

(卸売物価——落着きぎみ)

10月の卸売物価は、9月に続き総平均で前月比+0.1%の微騰となった。類別にみると、鉄鋼、

繊維、非鉄金属の主力市況商品は、いずれも下落、機械器具も家電製品の値下がりを主因に反落を示したが、反面食料品が季節需要に加え酒類の値上げもあって大幅続騰となったほか、石油・石炭・同製品、木材・同製品、金属製品、窯業製品等も上昇を続けた。

産業別分類では、工業製品が保合いにとどまったのに対し、非工業製品は農林水産物の値上がりから前月比+0.2%の続騰となった。

11月にはいつてからは、上旬に前旬比-0.1%のあと中旬も同-0.1%と10月中旬以来4旬連続の下落となっている。類別にみると、繊維品が中旬に値上がりしたのが目だつが、反面、鉄鋼、非鉄金属は、引き続きかなりの下落を示し、木材・同製品も値下がりした。そのほか食料品、金属製品、窯業製品、雑品目は騰勢一服ないし弱保合いとなっている。なお産業別分類では、工業製品が鉄鋼、非鉄関係の軟調を映じて引き続き弱含み(上旬前旬比-0.2%、中旬同-0.1%)に推移しており、

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウェ イト	前年度比上昇率		最 近 の 推 移 (前月(旬)比上昇率)								
		43年度 平均	44年度 平均	45 年			45 年 10 月			45 年 11 月		
				8 月	9 月	10 月	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	
総 平 均	100.0	+ 0.6	+ 3.2	+ 0.2	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.1	- 0.1	- 0.1	- 0.1	- 0.1	
食 料 品	15.7	+ 5.2	+ 4.2	+ 0.5	+ 1.3	+ 1.5	+ 0.4	- 0.1	+ 1.2	+ 0.2	保 合	
繊 維 品	10.7	- 0.9	+ 0.4	+ 1.4	- 0.2	- 0.1	+ 0.1	保 合	- 0.5	保 合	+ 0.1	
鉄 、 鋼	9.7	- 4.4	+ 11.3	+ 0.1	- 0.6	- 1.7	- 0.8	- 0.6	- 0.6	- 0.6	- 0.3	
非 鉄 金 属	4.4	- 0.5	+ 18.2	- 2.9	- 3.1	- 2.4	- 0.3	- 1.3	- 1.6	- 2.4	- 0.2	
金 属 製 品	3.8	+ 0.7	+ 3.0	- 0.2	保 合	+ 0.4	+ 0.3	+ 0.2	保 合	保 合	保 合	
機 械 器 具	22.1	+ 0.1	+ 0.1	保 合	+ 0.1	- 0.1	- 0.2	保 合	+ 0.1	- 0.1	保 合	
石油・石炭・同製品	5.6	- 1.3	- 1.5	+ 0.4	+ 0.6	+ 1.3	+ 1.2	+ 0.1	保 合	+ 0.4	+ 0.8	
木材・同製品	6.2	+ 5.2	+ 3.0	+ 1.0	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.4	- 0.2	- 0.4	- 0.9	
窯 業 製 品	3.0	+ 1.8	+ 2.3	+ 0.2	+ 0.6	+ 0.5	+ 0.3	保 合	保 合	+ 0.1	保 合	
化 学 品	7.6	- 2.2	- 0.4	- 0.1	+ 0.3	- 0.1	保 合	保 合	保 合	+ 0.2	- 0.1	
紙・パルプ・同製品	3.4	- 0.9	+ 3.7	- 0.1	+ 0.3	保 合	+ 0.3	- 0.1	保 合	- 0.1	- 0.1	
雑 品 目	7.9	+ 0.9	+ 2.7	+ 0.2	+ 0.5	保 合	- 0.1	保 合	- 0.1	保 合	保 合	
工 業 製 品	82.0	+ 0.3	+ 3.0	+ 0.2	- 0.1	保 合	保 合	- 0.1	保 合	- 0.2	- 0.1	
うち												
大 企 業 性	59.6	- 0.4	+ 2.3	保 合	- 0.4	- 0.2						
中 小 企 業 性	21.0	+ 2.2	+ 4.4	+ 0.9	+ 0.5	+ 0.5						
非 工 業 製 品	18.0	+ 2.1	+ 4.1	+ 0.5	+ 0.9	+ 0.2	+ 0.3	- 0.3	- 0.1	+ 0.1	- 0.3	

(注) 本行調べ。

また9、10月とかなり上昇した非工業製品も豚肉等の値下がりを主因に、上旬の前旬比+0.1%のあと中旬は同-0.3%と反落した。

(工業製品生産者物価——保合い)

10月の工業製品生産者物価は、前月3か月ぶりに反落(-0.1%)したあと保合いにとどまった。

これは食料品、石油・石炭製品が統騰し、天然および化学繊維、繊維二次製品等も値上がりしたものの、普通鋼鋼材、非鉄金属、合成繊維が大幅統落、木材・同製品、紙・パルプ・同製品、雑品目等も低落したためである。

(消費者物価——反落)

消費者物価(東京)は、10月に前月比+2.0%のあと、11月(速報)は前月比-0.5%と、6月以来5か月ぶりに反落した(季節商品を除く総合では前月比+0.8%の統騰)。しかし前年同月比では、+8.3%と依然高水準(前月+8.8%)。

今月の下落は、食料費が、野菜(前月比-22.4%)

工業製品生産者物価指数の推移

(単位・%)

	ウエ イト	前年度比 上昇率		最近の推移 (前月比上昇率)		
		43年度 平均	44年度 平均	45年		
				8月	9月	10月
総 平 均	100.0	+0.3	+2.4	+0.2	-0.1	保 合
食 料 品	12.6	+5.7	+2.4	+0.2	+1.2	+1.1
天然および化学繊維	3.0	-4.7	-1.1	+0.4	-3.1	+0.6
合 成 繊 維	1.4	-6.4	-3.1	-0.6	-0.6	-1.9
織 維 二 次 製 品	2.8	-0.5	+1.3	-0.2	-0.4	+0.2
普 通 鋼 鋼 材	7.2	-5.3	+10.2	+0.8	-0.9	-1.3
特 殊 鋼 鋼 材 其 他	2.5	-2.1	+3.0	-0.6	保 合	-0.2
非 鉄 金 属	4.4	-0.5	+16.5	-2.5	-3.4	-0.7
金 属 製 品	4.6	+0.6	+2.2	-0.1	-0.1	+0.2
一 般 機 械	10.4	+2.1	+1.6	+0.4	+0.1	保 合
輸 送 機 械	8.3	-1.6	-1.2	保 合	+0.1	保 合
電 気 機 械 器 具	9.1	-1.0	+0.1	-0.4	保 合	保 合
石 油 ・ 石 炭 製 品	3.7	-1.3	-1.6	+0.6	+0.3	+2.5
木 材 ・ 同 製 品	5.0	+5.1	+3.5	+0.9	+0.1	-0.8
窯 業 製 品	3.4	+0.9	+1.4	+0.3	+0.3	保 合
化 学 製 品	7.8	-2.6	-1.0	-0.5	保 合	+0.1
紙 ・ パ ル プ ・ 同 製 品	4.5	-0.1	+2.9	-0.1	-0.2	-0.3
雑 品 目	6.1	+0.2	+2.7	-0.1	+0.2	-0.2

(注) 本行調べ。

およびくだもの(同-9.8%)等の値下がりを主因に反落(同-1.7%)したことが大きく響いており、光熱費(同+0.9%)、被服費(同+0.8%)、住居費、雑費は引き続き上昇した。

(10月の輸出入物価——輸出物価は統落、輸入物価も下落)

10月の輸出物価は前月比-0.1%と前月(同-0.3%)に続き下落した(船舶を除く総平均では前月比-0.3%の統落)。品目別にみると、金属・同製品(鉄鋼、銅製品)、繊維品(合織、綿織物)、化学製品(化学肥料、アクリロニトリル等)、雑品目(合板)が輸出環境の悪化もあって統落した。なお食料品(冷凍まぐろ)、機械器具(船舶、舶用内燃機関)は統騰している。

一方、輸入物価は9月に前月比+0.4%と5か月ぶりに反騰したあと、10月は前月比-0.5%と再び下落した。これは食料品(小麦、飼料、粗糖)、雑品目(牛脂、大豆、パルプ)が統騰したものの、繊維品(原毛、マニラ麻、原綿)、金属(銅鉱、銅地金)が統落したことに加えて、鉱物性燃料が原料

消費者・輸出入物価指数の推移

(単位・%)

		ウ エ イ ト	前年度比 上 昇 率		最近の推移 (前月比上昇率)			最 近 の 年 月 最 前 月 同 比	
			43年度 平均	44年度 平均	45 年				
					9 月	10月	11月		
消 費 者 物 価	東 京	総 合 (季節商品 を除く)	100.0	+5.2	+6.6	+2.7	+2.0	-0.5	+ 8.3
			91.4	+5.6	+5.6	+1.5	+1.5	+0.8	+ 6.8
		食 料 住 居 光 熱 被 服 雑 費	40.9	+6.5	+8.1	+3.8	+3.5	-1.7	+10.3
			10.7	+2.4	+3.0	+0.4	+1.3	+0.4	+ 5.8
			4.5	+0.3	+0.3	+0.2	+1.0	+0.9	+ 1.8
			13.0	+5.5	+7.2	+7.2	+0.7	+0.8	+11.8
	31.0	+5.3	+6.3	+0.3	+0.9	+0.3	+ 5.9		
	全 国	総 合 (季節商品 を除く)	100.0	+4.9	+6.4	+2.2	+1.7		+ 8.6
			91.4	+5.3	+5.2	+1.1	+1.2		+ 6.5
		上 の 都 市 以 上 の 人 口	総 合 (季節商品 を除く)	100.0	+4.9	+6.6	+2.3	+1.7	
91.3				+5.3	+5.3	+1.1	+1.2		+ 6.7
輸 入 物 価		輸 出 輸 入 交 条		+0.6	+4.0	-0.3	-0.1		+ 3.3
				-0.3	+3.8	+0.4	-0.5		+ 2.5
				+0.9	+0.2	-0.7	+0.4		+ 0.8

(注) 1. 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は本行調べ。
2. 45年11月は速報。

炭中心に反落したことによる。なお機械器具、化学製品は前月比保合いとなった。

◇国際収支は引き続き大幅の黒字

10月の国際収支は、貿易収支が引き続き大幅な黒字となったことから、総合で247百万ドルの黒字となり、既往最高の前月(同393百万ドル)を下回ったものの、好調を持続した。

季節調整後の貿易収支は、輸出が前月相当の増加を示したあと、当月も船舶の引渡し集中などからかなりの増勢を持続した一方、輸入は小幅の増加にとどまったため、月中326百万ドルの大幅黒字(前月同314百万ドル)となった。

長期資本収支は113百万ドルの流出超と8、9月に比べ流出超幅がやや拡大した。これは、外国資本が対日証券投資、インパクト・ローン等の受入れから1億ドルと本年2月以来の大幅流入超(前月同66百万ドル)となったものの、本邦資本が船舶の輸出伸長に伴う延払信用供与の増加に加え、アジア開発特別基金に対する拠出などもあって213百万ドルの大幅流出超となったためである。

金融勘定では、為銀の対外ポジションは、買持輸出手形が引き続きかなり増大したものの、輸入資金貸付による円シフト一巡

に伴い再び外銀借入れが増加に転じたことなどから小幅の改善(28百万ドル、前月同360百万ドル)にとどまり、一方外貨準備は前月増大した為銀買持輸出手形の資金化進捗等から月中222百万ドルの増加となった(月末残高3,778百万ドル)。

10月の輸出は、前年同月比で+25.1%(前月+21.2%)、季節調整後の前月比で+1.6%(前月+7.3%)と続伸した。これには、船舶(通関ベース、前年同月比+81%)の引渡し集中も響いているが、

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	45 年			45 年			44 年 10 月
	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	8 月	9 月	10 月	
経 常 収 支	67	386	629	193	243	255	165
貿易収支	591	858	1,136	339	422	398	286
輸 出	4,050	4,599	4,975	1,572	1,717	1,747	1,397
輸 入	3,459	3,741	3,839	1,233	1,295	1,349	1,111
貿易外収支△	465△	422△	461△	128△	171△	129△	110△
移転収支△	59△	50△	46△	18△	8△	14△	11△
長期資本収支△	438△	463△	321△	83△	75△	113△	32△
本邦資本△	670△	435△	398△	118△	141△	213△	149△
外国資本	232△	28	77	35	66	100	117
基礎的収支△	371△	77	308	110	168	142	133
(37)(28)(48)(6)(60)(70)(109)							
短期資本収支	185	149	247	76	86	90	22
誤差脱漏	170△	49	95	8	139	15	32
総 合 収 支△	16	23	650	178	393	247	187
金融勘定△	16	23	650	178	393	247	187
外貨準備	372△	99△	213	19	29	222	8
増 減							
その他△	388	122	863	159	364	25	179
外貨準備高	3,868	3,769	3,556	3,527	3,556	3,778	3,234
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	395	419	1,185	825	1,185	1,213	377

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。
2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国 際 収 支			通 関		輸 出	輸 出	輸 入
	輸 出	輸 入	貿 易 じ	輸 出	輸 入	信用状	認 証	承 認
44年 10～12月	1,394 (+ 4.3)	1,090 (+ 3.2)	304	1,416 (+ 4.2)	1,345 (+ 0.6)	1,216 (+ 7.5)	1,513 (+ 7.0)	1,268 (+ 1.6)
45年1～3月	1,499 (+ 7.6)	1,166 (+ 6.9)	333	1,538 (+ 8.6)	1,479 (+ 10.0)	1,235 (+ 1.6)	1,584 (+ 4.7)	1,401 (+ 10.5)
4～6月	1,548 (+ 3.2)	1,227 (+ 5.2)	321	1,578 (+ 2.6)	1,534 (+ 3.7)	1,260 (+ 2.1)	1,627 (+ 2.7)	1,465 (+ 4.5)
7～9月	1,612 (+ 4.1)	1,320 (+ 7.6)	292	1,628 (+ 3.2)	1,664 (+ 8.5)	1,304 (+ 3.4)	1,700 (+ 4.5)	1,574 (+ 7.5)
45年 8 月	1,535 (- 7.1)	1,312 (- 0.2)	223	1,563 (- 4.8)	1,654 (- 1.4)	1,308 (+ 3.2)	1,598 (- 6.4)	1,592 (- 1.6)
9 月	1,647 (+ 7.3)	1,333 (+ 1.6)	314	1,680 (+ 7.5)	1,660 (+ 0.4)	1,336 (+ 2.1)	1,795 (+ 12.4)	1,510 (- 5.2)
10 月	1,674 (+ 1.6)	1,348 (+ 1.1)	326	1,690 (+ 0.6)	1,709 (+ 2.9)	1,398 (+ 4.6)	1,786 (- 0.5)	1,627 (+ 7.7)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。
2. カッコ内は前期(月)比増減率(%)。
3. 季節調整はセンサス局法による。

このほか自動車(同+42%)、二輪自動車(同+89%)、事務用機器(同+53%)、原動機(同+93%)等も好調を持続したためである。ただ、鉄鋼(同+18%)、ラジオ(同+16%)は9月までに比べ伸び率がやや鈍化したことが目だつ。また綿織物(同-7%)、非金属鉱物製品(同-11%)等は引き続き低調であった。地域別にみると、西欧向け(同+54%)が船舶、自動車等の好伸からかなりの増加となつ

たほか、アフリカ向け(同+50%)、ソ連向け(同+78%)などの高い伸びが目だった。

11月の輸出信用状接受高は、営業日数の関係もあって前年同月比で+10.9%(前月+15.7%)にとどまり、また季節調整後の前月比でも前3ヵ月かなりの増加を続けたあと-6.2%(前月+4.6%)となった。品目別に前年同月比でみると、機械類が

通 関 輸 入 の 内 訳

(単位・百万ドル)

	45 年			45 年		
	(単位・百万ドル)					
	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月
食 料 品	125	160	199	69	68	56
	(+ 22)	(- 7)	(+ 18)	(+ 16)	(+ 26)	(+ 33)
魚 介 類	59	65	94	32	34	34
	(+ 12)	(+ 13)	(+ 16)	(+ 19)	(+ 7)	(+ 21)
繊維製品	497	584	624	205	204	223
	(+ 6)	(+ 4)	(+ 8)	(+ 7)	(+ 7)	(+ 13)
綿 織 物	40	46	48	15	16	17
	(- 21)	(- 19)	(- 12)	(- 14)	(- 15)	(- 7)
合繊維物	123	147	167	55	56	61
	(+ 27)	(+ 23)	(+ 23)	(+ 23)	(+ 21)	(+ 20)
化学製品	287	296	308	95	113	116
	(+ 44)	(+ 32)	(+ 6)	(- 2)	(+ 13)	(+ 16)
非金属 鉱物製品	86	95	96	31	33	30
	(+ 1)	(- 4)	(- 4)	(- 7)	(- 3)	(- 11)
金属製品	820	940	1,010	329	357	318
	(+ 36)	(+ 36)	(+ 31)	(+ 36)	(+ 30)	(+ 23)
鉄 鋼	633	689	749	238	269	229
	(+ 41)	(+ 36)	(+ 34)	(+ 38)	(+ 31)	(+ 18)
機械機器	1,933	2,113	2,280	696	788	873
	(+ 27)	(+ 25)	(+ 23)	(+ 17)	(+ 23)	(+ 35)
(船舶 を除く)	1,536	1,795	2,002	640	702	708
	(+ 26)	(+ 24)	(+ 25)	(+ 20)	(+ 31)	(+ 28)
テレビ	71	88	119	40	40	42
	(+ 16)	(+ 7)	(+ 8)	(+ 1)	(+ 6)	(+ 12)
ラジオ	136	169	197	64	71	70
	(+ 29)	(+ 24)	(+ 21)	(+ 25)	(+ 25)	(+ 16)
自動車	266	306	362	114	127	127
	(+ 21)	(+ 31)	(+ 37)	(+ 36)	(+ 45)	(+ 42)
船 舶	397	318	278	56	86	165
	(+ 35)	(+ 32)	(+ 8)	(- 10)	(- 19)	(+ 81)
光学機器	105	123	134	42	45	46
	(+ 19)	(+ 11)	(+ 15)	(+ 12)	(+ 18)	(+ 14)
そ の 他	383	481	536	174	176	163
	(+ 15)	(+ 11)	(+ 14)	(+ 8)	(+ 18)	(+ 12)
合 計	4,131	4,668	5,054	1,599	1,738	1,779
	(+ 25)	(+ 21)	(+ 19)	(+ 16)	(+ 20)	(+ 25)
(船舶を 除く)	3,734	4,350	4,776	1,543	1,653	1,614
	(+ 24)	(+ 20)	(+ 20)	(+ 17)	(+ 24)	(+ 21)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

	45 年			45 年		
	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月
食 料 品	579	605	670	210	241	235
	(+ 15)	(+ 17)	(+ 24)	(+ 29)	(+ 23)	(+ 25)
小 麦	82	66	92	29	32	27
	(+ 13)	(- 12)	(+ 23)	(+ 12)	(+ 54)	(+ 20)
とうも ろこし	74	78	64	19	22	27
	(+ 26)	(+ 24)	(+ 17)	(+ 56)	(+ 9)	(+ 11)
砂 糖	58	63	76	28	26	28
	(+ 11)	(+ 52)	(+ 59)	(+ 80)	(+ 35)	(+ 62)
原 燃 料	2,421	2,636	2,704	857	922	990
	(+ 26)	(+ 30)	(+ 24)	(+ 18)	(+ 26)	(+ 23)
羊 毛	97	93	90	30	27	25
	(- 3)	(- 5)	(- 16)	(- 11)	(- 19)	(- 16)
綿 花	111	131	111	34	38	41
	(+ 2)	(+ 14)	(+ 14)	(- 3)	(+ 15)	(+ 21)
鉄 鉱 石	265	306	310	94	117	113
	(+ 22)	(+ 25)	(+ 23)	(+ 13)	(+ 42)	(+ 25)
鉄鋼くず	66	102	109	32	35	21
	(+ 108)	(+ 143)	(+ 67)	(+ 47)	(+ 46)	(- 2)
非鉄金属鉱	255	274	270	97	86	93
	(+ 72)	(+ 77)	(+ 31)	(+ 26)	(+ 21)	(+ 13)
大 豆	87	87	88	26	34	35
	(+ 33)	(+ 26)	(+ 27)	(+ 69)	(+ 34)	(+ 53)
木 材	338	385	419	132	138	156
	(+ 28)	(+ 16)	(+ 24)	(+ 22)	(+ 24)	(+ 25)
石 炭	188	249	276	90	91	114
	(+ 26)	(+ 58)	(+ 50)	(+ 45)	(+ 47)	(+ 90)
原 油	544	534	541	166	190	206
	(+ 17)	(+ 18)	(+ 19)	(+ 3)	(+ 27)	(+ 14)
化学製品	239	255	250	82	84	92
	(+ 29)	(+ 32)	(+ 28)	(+ 36)	(+ 29)	(+ 29)
機械機器	561	591	557	187	182	197
	(+ 54)	(+ 46)	(+ 27)	(+ 22)	(+ 26)	(+ 45)
鉄 鋼	81	74	77	28	22	16
	(+ 24)	(+ 44)	(+ 53)	(+ 75)	(+ 14)	(- 32)
非鉄金属	262	237	237	75	71	72
	(+ 24)	(+ 15)	(- 3)	(- 7)	(- 24)	(- 14)
そ の 他	259	282	336	115	108	111
	(+ 51)	(+ 44)	(+ 38)	(+ 40)	(+ 33)	(+ 28)
合 計	4,403	4,680	4,829	1,554	1,629	1,714
	(+ 29)	(+ 30)	(+ 24)	(+ 21)	(+ 23)	(+ 23)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

自動車、卓上電算機等を中心に好調を持続したほか、食料品(欧米向け水産かん詰等)も高い伸びを示した反面、鉄鋼はアジア、欧州向けの不振が響いて前年をわずかながら下回り、繊維製品等も低調であった。地域別には、米国向けが自動車等の好調からかなりの増加となったものの、アジア、欧州向けは鉄鋼、化学肥料(対中共)等の不振から前年を下回った。

10月の輸入は、前年同月比で+21.4%(前月+24.3%)と9ヵ月ぶりに輸出の伸びを下回り、季節調整後の前月比でも+1.1%(前月+1.6%)と小幅な増加にとどまった。これは、石炭(通関ベース、前年同月比+90%)、木材(同+25%)が大量既契約分の入着等により、また大豆(同+53%)が買付け量の増加と輸入価格の上昇により、それぞれかなりの増加となったものの、鉄くず(同-2%)、鉄鉄(同-32%)が鋼材の国内需給引きゆるみを映じた買い手控えから前年を下回ったほか、非鉄金属(地金同-14%、鉱石同+13%)、羊毛

(同-16%)も内需不振、海外市況の軟化傾向から低調であったことによる。

10月の輸入承認は前年同月比で+22.2%(前月+17.1%)、季節調整後の前月比でも+7.7%(前月-5.2%)とかなりの増加となったが、これには大型航空機の輸入が大きく響いており、この特殊要因を除けば前年同月比で+16.8%、季節調整後の前月比で+3.0%とむしろ増勢は前月より鈍化する。品目別にみると、石炭、木材、鉄鉱石は引き続きかなりの増加となったが、鉄くず、鉄鉄、非鉄金属鉱等は、鉄鋼・非鉄金属メーカーの生産調整実施に伴う輸入手控えから低調であった。

10月の輸入素原材料関連指標(製造業、季節調整済み)をみると、石炭等の輸入が増加した反面、消費が総体に伸び悩んだ(前月比-0.1%)ため、在庫は増大し(前月比+5.9%)、この結果在庫率は99.7(前月94.0)と続伸し、前年3月(100.4)以来の高水準となった。